

### 3.10.4 社会還元促進部門 技術移転推進室

室長 鳥居秀行 ほか 10 名

#### 産業界への技術移転を通して研究開発成果の社会への還元を推進

##### 【概要】

NICT の研究開発成果の技術移転を推進することを通じて、研究開発成果の社会への還元を促進するため、以下の業務を行っている。

- (1) NICT の知的財産をはじめとする研究開発成果の利用を希望する者への技術移転を推進する。
- (2) 研究開発成果の技術移転活動の効果的実施のため、特許フェア等の主要な展示会に出展して研究開発成果を積極的に発信する。
- (3) NICT が所有する知的財産権の実施化を、当該権利を創造した研究者自身がベンチャー起業により行うことに対して支援を行う。

##### 【平成 23 年度の活動実績】

##### (1) 技術移転業務の効率化

これまで技術移転業務は外部の技術移転機関に業務委託して行ってきたが、平成 23 年度から技術移転業務を NICT 自ら行うこととし、その業務を技術移転推進室が担当して実施を開始した。この技術移転業務の主体の転換によって、企業や発明者である研究者との協議などが効率化されたこともあり、新規の有償実施契約件数は 22 件と近年としては良好な結果となり、本年度の知的財産収入は過去最高の 7,876 万円となった（図 1）。

<p>成田国際空港多言語音声翻訳アプリ “NariTra”</p>  <p>話した内容をその場で音声翻訳する一般旅行者向け旅行会話用スマートフォンアプリ</p>	<p>トラフィックモニタリングシステム “NIRVANA”</p>  <p>ネットワークインシデント分析センター nicter の可視化技術を応用した、リアルタイム性に優れたパケットトラフィックモニタリングシステム</p>	<p>波長可変量子ドット光源</p>  <p>従来十分な光源がなかった 1.0 – 1.3μm 帯を、量子ドット作成技術等を応用して実現（光通信、医療、部品評価等の分野での利用を想定）</p>
---	---	---

図 1 知的財産の新規実施契約の例

##### (2) イベント・展示会を活用した知的財産の活用促進

NICT の技術移転を紹介することの効果が期待できるイベント・展示会に参加し情報の発信に努めた。特に、10 月 29 日に東京都立小金井公園で行われた東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同総合防災訓練では、地域分散無線ネットワーク（NerveNet）のデモンストレーション（図 2）を来場者向けに行ったほか、NICT の防災対策技術の研究開発を紹介する展示（図 3）も行った。また、ICT ベンチャー等の事業化アイデアと NICT の知的財産とのマッチングを促進することによる手法の可能性を探るため、NICT の知的財産のうち実用化段階に近いもの 9 件を選定（図 4）し、産業振興部門事業化支援室と連携して NICT ビジネスマッチングイベント（図 5）を 12 月 12 日に開催した。



図2 会場内に設置した NerveNet 基地局



図3 NICTの展示ブース

- ・見て、触れて、聞こえて、香る、多感覚インタラクション技術
- ・曲げられる、着られるアンテナ
- ・UWBハイバンドを用いたBANシステムの開発
- ・置くだけで通信ができる新しい情報インターフェース
- ・音声翻訳アプリケーション開発キット
- ・RFID ケータイ、及びRFID を用いた音声読み上げ端末
- ・TDW（タイルドディスプレイ）のための大規模画像表示技術
- ・災害に強い分散データセンター技術
- ・歪のない空中映像を提示可能な結像光学素子

図4 アイデア募集の対象とした NICT の知的財産



図5 NICT ビジネスマッチングイベントの説明会の模様

### (3) 社会還元促進ファンドの開始

NICTの研究活動や保有技術、連携プロジェクト等によって生み出された研究成果から、原則1年以内の開発などを行うことにより社会展開の迅速化が見込まれる課題を発掘・選定し、その課題に対して予算措置を行うことで社会還元の促進を図ろうとする取り組みを開始した。今年度は3件の課題を決定し、9月からそれぞれの研究室において社会展開の迅速化を見据えた開発などの実施を開始した。また、次年度当初からの開発等の実施の開始を前提に、年度末までに次年度課題5件を決定した（表1）。

表1 社会還元促進ファンドの対象となった課題の一覧

年度（実施期間）	課題名
平成23年度 （平成23年9月～ 平成24年7月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域分散無線ネットワーク技術</li> <li>・空中映像技術</li> <li>・超高周波イメージング技術</li> </ul>
平成24年度 （平成24年3月～ 平成25年3月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報弱者コミュニケーション支援技術</li> <li>・フォトディテクター評価装置</li> <li>・波長可変量子ドット光源</li> <li>・毎秒テラビットを超える超高速光無線通信技術</li> <li>・NICTサイエンスクラウド用トレーサビリティ機能実装</li> </ul>